Ⅲ. 委員会活動

1. 入試・広報委員会

入試・広報委員会は入試の実施に係る事項と広報に係る事項を所管する。

入試に係る事項

平成22年度入試に関する検討会議を以下の内容を中心に15回実施した.

- 1)リハビリテーション学科における AO 入試,公募制推薦入試,一般入試,社会人入試,大学入試センター試験の実施要領を検討した.
- 2)リハビリテーション学科における AO 入試,公募制推薦入試の面接評価,調査書評価の 方法,および,社会人入試の面接評価,小論文評価の方法を検討した.
- 3)言語聴覚専攻科の面接評価の方法を検討した.
- 4)学生募集要項におけるアドミッションポリシーの記載内容を検討した.
- 5)入学試験問題のミス防止のためのチェック方法を検討した.
- 6)学生募集要項の作成を行った.

広報に係る事項

1)大学案内の作成

"受験生が手に取り、ページを開いて目を止めるような大学案内作り"をコンセプトに、大判写真を多用し、アメリカンフットボール選手の有馬隼人氏とのインタビューを通してのリハビリテーション医療の将来、在学生と教員との座談会による大学の教育理念の紹介などを中心に、1万5千部作成した.

2)オープンキャンパス運営

"志願数は大学施設への直接来場者への対応で決まる.小さいながらも魅力的な大学であることを見せる"をテーマに、活気あるオープンキャンパスを学生、教職員一丸となって計 10 回開催し、述べ 482 名の参加を得た.

参加者からは、学生と教員やスッタフのフレンドリーな暖かい交流が印象的であったとの感想が多かった.

3)高校訪問

大学の認知度を上げるために、教職員一丸となって大阪府を中心に、京都府、兵庫県、 奈良県の高校を訪問し、大学の紹介とリハビリテーションの説明および理学療法士、作業 療法士の将来性の説明を行った.

4)出前講義

出前講義を企画し、大学ホームページに公開した.

2. FD 委員会

平成21年12月1日にFD委員会が発足し「FD委員会規程」を作成した.FD委員会の会議は、準備会議と本会議の2回開催し、審議事項はFD委員会の活動内容として、授業の内容および改善の方策に関する事項、研究会及び講習会の開催に関する事項について協議した.実際の活動は、以下のとおりである.

1)授業評価アンケート

授業評価アンケートは、教務委員会で実施し、FD委員会で結果を活用することとなった。実施方法は、前期試験・後期試験前の最終授業終了後に、全科目(専任・非常勤)について担当教員より配布・回収した。回答は、マークシート方式(15 問)及び記述式(3 問)とし、学生の意欲・教室教材の利用・授業内容・教員の意欲等について、5段階で評価するものである。前期 25 科目、後期 23 科目に対して実施した。授業評価アンケートの結果を担当教員に報告し、学生からの要望点を示して授業改善を促した。また教養科目の1科目については、アンケート結果に基づき教務委員会で検証・検討の結果、平成 22 度の担当予定だった非常勤講師 1名を交代した。

2)FD 研究会・FD 講習会

教員の研究力と卒業研究指導に向けた資質の維持・向上を目的として,各教員の研究活動を発表・議論し,互いに研鑽する場を設けることとし,平成21年度で5回開催した.また,FD講習会として外部を招聘し,学習支援システム研修会,新任教員の為の全体会議などを開催した.

3. 図書委員会

(委員会開催日)

第1回(平成21年4月15日)~第11回(平成22年3月23日)

1)議案

- ①設置経費のよる平成 21 年度選書済み図書の洗い直しなど選書ルールの策定・研究費図書のうち、消耗品的資料の取り扱い、雑誌の保存期間 (タイトルごと)、継続購読の検討 蔵書・雑誌・資料の分類 (収書計画)
- ②大阪保健医療大学附属大阪リハビリテーション専門学校(OCR)との合同調整会議の 開催
- ③来年度の購入図書などの予算化
- ④図書館機能充実への方針と年度内作業計画
- ⑤その他
 - 見計らい図書について
 - 医療福祉チャンネル 774 の検討
 - ・相互利用貸借に係る外部への貸し出し冊数、貸し出し期間について
 - ・学生便覧、新入生オリエンテーション
 - メディカルオンライン利用について
 - ・図書委員会規程の作成

2)審議結果

① 作業工程に基づき、書店(神陵文庫)が保有するデータベースから選書リスト作成.出版年の新しいものから選書したが、絶版分なども含まれており、設置予算が残る状況に.再選書により、設置予算は消化.選書リストを使って既蔵図書などのチェックと、不要書籍の削除作業.削除分と同分野の図書の補充には、蔵書数(分類別)を勘案し調整.和書の充実を図ることが、学生に適合すると判断.学科ごとのバランスも考慮.蔵書状況を把握しながら、次の選書に備える.

本学所蔵の医学関係図書(「日本十進分類法」400番台)3700冊リスト作成.選書のために、学科ごとの分類など行い、学生・教員の希望、図書委員会としての計画を考慮して、収書計画を立てる必要性あり、特に収書に関しては、書架の絶対的な不足が今後予想される.一方、各学科で重複して所蔵している資料なども多く、調整が必要.雑誌の保存期間は、5年、10年、永久の3種に保存期間を定め、現在継続購入していないものは、発行年度から5年もしくは10年保存.継続購入しているものも同様にする案が出た→OCRと合意.

永久保存とされた雑誌については、利用頻度、形態を考慮して製本.

購読する雑誌の継続の可否についても、検討が必要.

- ② OCR との合同会議を教授会の承認のもと、実施することに. 構成員は、OCR 図書委員、OHSU 図書委員長、事務局北川氏. 完成年度までこの構成で、H21 度は 2 回開催. 雑誌保存期間など合意.
- ③ 設置図書としての総額予算を消化する一年間であったが、今後は予算申請しての委員会活動を希望.
- ④ 図書館機能の充実としては、学習支援を第一義に考えたい、選書も国家試験対策などに必要な図書の充実、スポーツ医学に関する図書の充実にウェイトを置いてある。司書が学生アルバイトのみの時間帯がある点、OCR 卒業生へのサービスの提供がもっぱら夜間となるが、その間は学生アルバイトになっている。経費の問題もあるが、改善が望ましい。

DVD レコーダーの設置申請→H22 年度設置完了.

座席数の絶対的な不足の改善が差し迫った課題(大学の自己点検においても,問題となる)であるし、蔵書数の増加に伴う書架数の確保が必要である.

⑤その他

- ・見計らい図書を1号館6階に置くように.
- ・医療福祉チャンネルを共有できるよう OCR と調整・設置したが、設置以来利用件数は 0.
- ・相互利用貸借は、2冊、2週間まで.
- ・「図書館利用について」というタイトルで、学生便覧に掲載する. 開館時間や利用方法、複写の方法などが主な内容. また、新入生には、オリエンテーションで、マナーの問題などに触れることに.
- ・メディカルオンラインは年間850文献の無料ダウンロード契約.利用者を特定できない形で開始したところ、年度途中で予算オーバーになりそうに.利用者 ID の付与で、落ち着いた.次年度は利用単価を下げて、超過分は受益者負担の有料サービスを予定.
- ・図書委員会規程作成.全7条より成る.(第6回定例会議資料2)

4. 学生委員会

学生委員会では2009年度に以下の活動を実施した.

1) 大阪保健医療大学学生委員会規程作成 学生委員会規程を作成し、教授会で承認を受けた.

2) 学生自治会援助

- ①学生自治会規程作成援助:自治会で検討するための学生自治会規程案を作成し、自治会に提示した.
- ②自治会役員選挙援助:自治会役員選挙規定案を作成すると共に役員選挙実施を援助した.
- ③学生自治会主催行事援助:大阪リハビリテーション専門学校自治会と大阪保健医療 大学自治会が共同で開催した新入生歓迎会と学園祭の実施を援助した.
- ④クラブ・サークル設立及び活動の援助:「クラブ・サークル設立の流れ」や「クラブ・サークル顧問の条件と役割」を決定すると共に、自治会と共にクラブ・サークル設立願の審査を実施した.
- ⑤自治会会計援助:自治会予算作成,予算執行,決算の援助を実施した.
- 3) 大阪保健医療大学新入生歓迎特別講演会主催

ブルーミング代表の高尾憲司様を講師としてお迎えし、「夢は無限の力」というテーマで新入生歓迎特別講演会を主催した.

4) 学生向けの「薬物乱用」と「性感染症」に関する研修会主催 夏休み前に、ビデオとテキストを使用して「薬物乱用」と「性感染症」に関する研 修会を実施した.

- 5) 保健管理室と一緒に感染症対策を実施
 - ①実習に向けてワクチン接種(水痘,麻疹,風疹,流行性耳下腺炎)を実施した.
 - ②B型肝炎・C型肝炎キャリア学生に対するガイドラインを作成した.
 - ③新型インフルエンザ対策を実施した.

5. 臨床実習委員会

- 1)大阪保健医療大学臨床実習委員会規程作成 臨床実習委員会規程を作成し、教授会で承認を受けた.
- 2)実習依頼公文書の統一書式作成 実習依頼公文書の統一書式を作成した.
- 3)実習の手引きの作成

基本的な記載内容に差が生じないように注意しながら,各専攻,専攻科で「実習の手引き」を作成した.

4)臨床実習の履修に関する検討

臨床実習履修制限,実習時間の換算方法,臨床実習不合格者の再実習,成績判定,遅刻・早退の取り扱い,などについて検討を行い,各専攻,専攻科の意見統一を実施した.

5)臨床実習に係る事務手続きの検討

臨床実習時の負担,宿泊・実習定期券の手配,臨床実習に係る施設使用料区分,施設使用料支払い方法と時期,施設使用料算定日数,などについて検討を行い,各専攻,専攻科の意見統一を実施した.

6)臨床実習中のインフルエンザ対応

学生委員会と健康管理室と協力して、臨床実習期間中のインフルエンザ対策を策定した.

7)臨床実習における事故・災害時対処マニュアル作成

臨床実習における事故・災害時対処マニュアルを作成した.

6. 教務委員会

大阪保健医療大学の初年度からの教務委員会での審議事項は、実状に合わせたシステムの改良あるいは再構築という点に力注がれた。新入生向け入学前教育として、大学 HP の入学前教育サイト(http://www.ohsu.ac.jp/learning.html)で入学前に必要な人体の基礎知識を学べる、いわゆる e-learning のシステムを構築した。入学後には講義支援システムとして Jenzabar を導入し、更に Moodle へとシステム変更し、より良い環境を整備していった。

学生の出欠の取り方、長期欠席者の対応、定期試験の詳細な流れ、保護者への成績通知といった一連の過程の中で遭遇する事象についての対応が多かった。また、各授業後には、講義の改善を目的として、マークシート方式による授業評価アンケートの実施を決めた。成績優秀者については、更なる学力の向上を願い、表彰を行った。

来るべき卒業研究についてのあり方,進め方については当初から何度となく審議がなされてきた.